

『全集・叢書細目総覧』の内容紹介

井上陽子

やっと『全集・叢書細目総覧 古典編・続 付索引』が刊行された。本書は『全集・叢書細目総覧 第一巻 古典編』、『全集・叢書細目総覧 古典編 索引』（2冊とも昨年復刻版が刊行）に続くものであり、既に『国立国会図書館月報』などに簡単に紹介されている。ここでは両者を合わせて、その内容構成とあつかわれている主題について少し詳しく紹介してみようと思う。（以下『全集・叢書細目総覧 第一巻 古典編』を「古典編」、『同 古典編・続 付索引』を「続編」とする。）

1 採録の範囲・規準

1) 「古典編」は明治以降昭和45年までに刊行開始された全集・叢書、「続編」は昭和46年から同60年までに刊行された全集・叢書で、その内容の全部または大部分が幕末までに日本人の手になるものを収めている。

2) 活字版、謄写版、影印版で刊行されたもののほかに、近年の出版傾向として大部のコレクションがマイクロ形態でも刊行されるケースがあり、これも採録の対象としている。

3) 全集・叢書の範囲については、一般の解釈にしたがったが、次の点に留意している。

* 1冊でも該当するものは再録。

* 単なる多冊本（例 「源氏物語」）は除外。

* 文庫本は除外。

* ドキュメントを主体とする資(史)料集は原則として除外。

4) 芸術・美術、諸芸・娯楽関係については、細目の大部分が文字で書かれたもの（謡曲・浄瑠璃・歌舞伎など）に限定して採録し、次のものを主体とする場合は除外してある。

絵画・写真・地図・図録・書帖・碁譜・楽譜など。

5) 仏教関係については、日本における各宗派、僧侶の全集・叢書は採録しているが、経典だけの全集・叢書は除外。

6) 寺社の資(史)料集は、著名な寺社のものに限定して採録してある（例 「増上寺史料集」「熱田神宮文書」など）。

7) 地方史関係資料集は、都道府県規模で編纂されたものを採録し、市・郡規模のものは政令指定都市や、歴史的に特色のある地域のものにかぎって採録している（例 「大阪市史史料」「佐渡郷土史料」など）。

8) 現代語訳のみのものは採録しないが、原文が併載されているものは採録。

2 全集・叢書数

「古典編」は1,034タイトル、「続編」は674タイトルで、合計の延べタイトル数は1,708である。「続編」の全集・叢書数には、「古典編」から継続しているもの60タイトルが含まれているので、それを除いた合計の純タイトル数は1,648となる。

3 刊行年別タイトル数

	明治	大正	昭和(戦前)	昭和(戦後)	不明
「古典編」	190	228	328	282	6
「続編」	4	4	4	662	
計	194	232	332	944	6

刊行年は刊行を開始した年を示した。編集に際しては、当館所蔵のものを主としたが、各種目録によって補っている。そのため刊行年の確認が出来ないものもあり、「古典編」には刊行年不明のものが6タイトルある。「続編」で明治、大正、昭和(戦前)のものが各4タイトルずつあるが、内訳は「古典編」で採録もれだったもの、戦前から現在まで刊行継続中のものなどである。まだロングランを続けているものに、明治34年刊行され始めた「大日本古文書」と「大日本史料」(ともに東大史料編纂所編)、昭和6年開始の「日光叢書」(日光東照宮社務部編・刊)などがある。

4 主題別タイトル数

	「古典編」	「続編」	計	%
総記	297	187	484	(28.3%)
総合的な全集・叢書	75	46	121	
個人全集	131	83	214	(12%)
地域叢書	85	54	139	
書目、その他	6	4	10	
人文科学関係	663	422	1085	(63.5%)
哲学・思想	54	13	67	
宗教	104	81	185	(11%)
歴史	51	34	85	
地方史誌	114	58	172	(10%)
伝記	3	4	7	
地誌・紀行	18	16	34	
絵画	2	4	6	
演劇・歌舞伎・浄瑠璃	50	11	61	
能・狂言	26	10	36	
諸芸・娯楽	9	14	23	

文学	223	159	382	(22%)
文学一般, 小説	122	102	224	(13%)
注釈	6	6	12	
随筆	8	5	13	
俳諧	49	23	72	
和歌・歌論	33	19	52	
俳諧, 和歌以外の詩歌	5	4	9	
言語学	9	15	24	
社会科学関係	63	44	107	(6.2%)
政治・外交	6	5	11	
法律	7	8	15	
経済	10	2	12	
社会	2	2	4	
教育	6	1	7	
風俗・民俗	5	11	16	
武術・兵法	8	1	9	
産業	5	4	9	
農林漁業	5	3	8	
商業	5	1	6	
交通	2	2	4	
家政	2	4	6	
自然科学関係	11	21	32	(1.8%)
科学・技術	4	7	11	
医学	6	12	18	
生物	1	2	3	

全体で人文科学関係が1085タイトル(63.5%)を占める。総記は484タイトル(28.3%), 社会科学関係は107タイトル(6.2%), 自然科学関係は32タイトル(1.8%)である。さらにその中をみると文学が382タイトル, 全体の22%で一番多く, 続いて個人全集12%, 宗教11%, 地方史誌10%となる。「古典編」と「続編」の比較では, 収録数が多いので各分野とも前者の方が多のは当然だが, 言語学, 風俗・民俗, 自然科学全体では「続編」の方が多くなっているのは, 出版傾向の時代的な変化を表わしているようにみえる。

5 索引の項目数

次に索引についてふれると, 前回刊行の『全集・叢書細目総覧 古典編 索引』の

索引項目数は約48,000、「続編」のそれは約38,000である。両者の項目重複率は43.6% (30ページごとの平均値)である。ちなみに「続編」には「古典編」に収録された全集・叢書の、そのままの複製が120タイトルある。これらの数値が高いか低いかは、効率的な索引利用の際の一つの目安となるものであるが、重複率が半数を越えていないので、まずは「続編」作成の意義はあったと思う。

複製版の採録も、必ずしも無駄ではない。公共図書館などでは新しい全集・叢書を所有している館の方が多いと思われるので、新しい情報として役立ててもらえると嬉しい。

索引項目については、多分に古典籍の扱いに不慣れなため、現物に記載されたままを記述したが、まとめたものもあり、項目のたて方に統一を欠いていると思う。本文に返って確認していただきたい。今後不備や誤りについてご指摘いただければ幸いである。

以上のデータのほかに「続編」には122タイトルの影印版、マイクロフィッシュ、マイクロフィルムがある。古典籍資料をじかに見ないでも、これらで間に合うケースも多い。これをきっかけに「古典籍影印版目録」をつくってみるのも面白いと思っている。

今回刊行の「続編」は、日外アソシエーツ K. K. によって機械編纂をしてもらった。原稿作成段階では機械入力を考えていなかったこと、また「古典」という性格上、古い文字を多量に使わなければならなかったことなど、さまざまなご苦労をおかけしてしまった。索引項目の読み方についても多くの方達にお手伝いしていただいた。地名、人名の読み方には少なからず苦労した。各地の図書館や編者へ直接問い合わせをし、気持ちよくご協力をいただいたことに深く感謝し、誌上をかりてお礼申しあげるとともに、これらの書誌を大いに活用していただきたいと切に願っている。(以上の三冊はいずれも紀伊国屋書店で扱っている。)

(いのうえ・ようこ 参考課)